



第2回 自己点検アドバイザーボード 結果概要

【日時】 2023年1月26日（木）11:00～12:00

【場所】 オンライン会議（Zoom）

【参加者】 (株)NTT データ数理システム・小木しのぶ取締役、実践女子大学・竹内光悦教授、東海大学・山本義郎教授、 統計数理研究所・椿広計所長ほか

【結果概要】

○ 開会ごあいさつ

統計数理研究所・椿広計所長から、第1回ボードでの有益な助言やコンソーシアム会員・研修生の意見を踏まえて報告書の案を作成したこと、報告書の内容は今後の取組に活かしていくこと、より良き報告書の作成に向け忌憚のないご意見をお願いしたいことなど、ごあいさつ。

1. 自己点検報告書について

大学統計教員育成センター・千野雅人センター長から、自己点検報告書の案について説明。これに対し、次のような意見があった。

- ・ 十分な内容となっている。なお、「模擬講義」はとても良い取組なので、更に記述を充実させると良い。また、動画などのデジタル媒体の活用にも触れられると良い。
(⇒ 自信をもって始めた取組。講義内容は動画として保存し、共有している。)
- ・ 非常に良く記載されている。なお、点検分野2の「期待する」との記載は、取組を踏まえ主体的な文言に修正すると良い。同様に、「考えられる」も修正すると良い。
(⇒ リモートアクセスによる所内コンピュータの活用などの取組を実施している。)
- ・ 見出しの「対応の方向」には、「今後の」を付けると意味が分かりやすくなる。
- ・ 満足度の高い良い取組を行っているのだから、良い部分をアピールすると良い。

- アンケート自由記入回答に寄せられた多くの謝意や高評価を事例のように紹介すると、大学等への事業の魅力の発信、研修の価値の発信、研修生の環境整備への誘因となる。
- 参画機関による評価は、第1期研修に参加する機関による評価も追加すると良い。
- 洋書テキストはR言語を使用するものだが、最近はPythonもよく使われている。
(⇒ 当テキストでの学習内容は言語ではなく統計本体。Pythonの研修も実施する予定。)
- 来年度は研修の輻輳によりメンターの配置等が大変だろうが、がんばってほしい。

2. その他

その他、今後の予定について、事務局から説明があった。

- 自己点検報告書は、本日の助言を基に加筆修正を行って完成版とし、コンソーシアム・ホームページにて公開する予定。今後のコンソーシアム活動の改善につなげる。
- 報告書の完成をもって、アドバイザリーボードの活動も完了となる。

(文責：統計数理研究所 大学統計教員育成センター)